はんか通 骨董市 Curio Collectors

3～6人／30分／8歳以上

ゲームの背景

家康公が江戸に幕府を開いてからいくばくか。江戸の町は、かつてないほどの賑わいを見せていました。
あるとき、その江戸のある蔵から多くの品が見つかり、骨董市を開くことになりました。
そのうわさを聞き付けた商人たちが集まってきましたが、実は彼らは全く相場もわからない知ったかぶりなぼんくらばかり。
これは売れると見込んでたくさん集めてしまうと、価値が激減してしまう厳しい世界で、より多くの儲けを出すのはどの商人でしょうか？

内容物

◎市場カード…74枚

- 骨董品カード…56枚
  茶器5枚／屏風絵6枚／刀剣7枚／水墨画8枚
  和楽器9枚／木彫10枚／書物11枚

[表]

種類…骨董品の種類

勝利点…ゲーム終了時に受け取る勝利点

限界枚数…勝利点を額面通りに受け取る最大枚数。アイコン1つにつき1枚となります。

[裏]

- 宝石カード…9枚

[表]

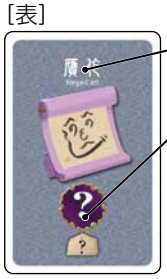
種類…「宝石」と書かれています。

勝利点…ゲーム終了時に受け取る勝利点

[裏]

- アクションカード…9枚
  大火3枚／儲け話2枚／破損2枚／贋作2枚

[表]



種類…アクションカードの種類

効果アイコン - アクションカードの効果

[裏]

◎反物カード…10枚（裏と表は同じ絵柄です）

[表]

[裏]

※表記の見方は骨董品カードと同じです。

◎選択カード（甲、乙）…12枚（6色 各2枚）

[表]

甲、乙のいずれかが書かれています。

[裏]

商人のキャラクターが描かれています。

◎元締カード…1枚

[表]

[裏]

◎仕切カード…1枚（裏と表は同じ絵柄です）

[表]

[裏]

◎売場カード（甲、乙）…2枚（裏と表は同じ絵柄です）

[表]

[裏]

◎瓦版カード…1枚（裏と表は同じ絵柄です）

[表]

[裏]

◎千両箱カード…１枚（裏と表は同じ絵柄です）

［表］

［裏］

ゲームの準備

反物カードをひとつにたばねて置いておきます。
市場カードをすべて裏向きにしてよく混ぜ、重ねて１つの山とします。１つの山とした市場カードを５つの山に分け、テーブル中央に左から右へと順番に並べます。１つの山の枚数はプレイ人数によって決まります。

３人…8 枚　４人…10 枚　５人…12 枚　６人…14 枚

市場カードの山をを左から順番に１ラウンド目の山、２ラウンド目の山、……、５ラウンド目の山と呼びます。
瓦版カードを５ラウンド目の山の右どなりに横向きにして置き、その上に残りの市場カードを全て裏向きにしてたばねて置いておきます。これを「瓦版」と呼びます。
千両箱カードを瓦版カードの右どなりに横向きにして置きます。
プレイヤーは、色を１色選択して選択した色の選択カード２枚を受け取り、手札にします。選択しなかった色の選択カードは箱に戻します。

一番最近骨董品を手に入れた人が「仕切」となります。該当する人がいない場合は、適当な方法で「仕切」を決めてください。
「仕切」は、仕切カード、売場カード（甲、乙）、元締めカードを受け取ります。受け取った仕切カードは「仕切」の前に置き、売場カード（甲、乙）、元締カードは「仕切」が手に持っておきます。

【５人プレイ時のセッティング例】

ゲームの流れ

このゲームは全部で５ラウンドおこない、最後に得点計算をおこなって終了です。このゲームでは勝利点を競います。
各ラウンドは以下のフェイズからなります。

１）準備フェイズ
２）メインフェイズ
３）元締フェイズ

１）準備フェイズ

「仕切」は、そのラウンド目の山から市場カードを全て取り、１枚ずつ表向きにして１列に並べていきます。

２）メインフェイズ

メインフェイズでは、「仕切」が一列に並べた市場カードを列の順序を保ったまま左右２つのグループに分けます。その後、各プレイヤーは左右どちらのグループの市場カードが欲しいか選択します。

同じグループを選択したプレイヤーが２人以上いた場合、そのグループを再び２つに分けて選択し直します。これを繰り返してゆき、並べた市場カード全てがいずれかのプレイヤーに全て渡るか、グループがそれ以上分けられなくなるまで続けます。

この市場グループを左右２つのグループに分け、プレイヤーがどちらの市場グループを欲しいか選択するまでの流れをターンと呼びます。
メインフェイズは、このターンを繰り返してゆきます。

最初のターンでは分けた列のいずれかに必ず元締カードを置きます。元締カードを手に入れたプレイヤーは、誰のものにもならなかったカードを全て受け取ります。

▪ターンの詳細

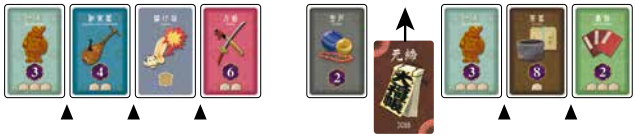
各ターンに参加できるプレイヤーのことを参加者と呼びます。各ラウンドのメインフェイズで最初のターンは、全てのプレイヤーが参加者となります。

各ターンの最初に「仕切」は、対象の市場カードを左右２つに分けます。この際に以下のルールがあります。

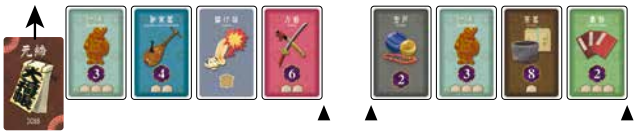
・市場カードの順番等を代えてはいけません。
・左右２つに分けた各グループに少なくとも市場カードが１枚以上含まれていなくてはなりません。
・左右２つのグループに含まれない市場カードがあってはいけません。

分けた市場カードの片方のグループに売場カード「甲」を置き、もう片方のグループに「乙」を置きます。
市場カードを２つに分けた後、「仕切」が元締カードを手に持っていたら、分けた市場カードに元締カードを表向きに置きます。置ける場所は以下のいずれかの場所です。

・いずれかの市場カードと市場カードの間



・市場カードの端



参加者は、どちらのグループの市場カードが欲しいか、選択カードの「甲」、「乙」のうちどちらかを選択して、自分の前に伏せます。参加者全員が選択カードを伏せたら、一斉に表向きにして公開します。選択カードが公開されると、以下の順で処理します。

まず「甲」グループから処理し、次に「乙」グループを処理します。処理は以下の３種類のうち、どれに該当するかを確認します。

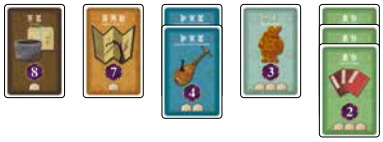
a) 対象のグループを選択したプレイヤーが 0 人の場合
b) 対象のグループを選択したプレイヤーが 1 人の場合
c) 対象のグループを選択したプレイヤーが 2 人以上の場合

種類別に説明します。

a) 対象のグループを選択したプレイヤーが 0 人の場合
対象のグループの市場カード全てを千両箱カードの上に表向きにして重ねて置きます。対象のグループに元締カードがあった場合、「仕切」が取って手に持っておきます。

b) 対象のグループを選択したプレイヤーが 1 人の場合
選択したプレイヤーが対象の市場カードを全て受け取ります。対象のグループに元締カードがあった場合、選択したプレイヤーが元締カードを受け取り、裏返しにして手元に置きます。元締カードを受け取ったプレイヤーが、このラウンドの「元締」となります（「元締」は元締フェイズに影響があります）。
そして、選択したプレイヤーは、このラウンドでは以降、参加者ではなくなります（残りのメインフェイズで市場グループを選択することができません）。

※市場カードを受け取った際の処理
市場カードを受け取ったプレイヤーは、まずその中の骨董品カードを自分の前に種類別に分けて表向きにして並べます。以前に受け取っている骨董品カードがある場合に、その骨董品カードの上に少しずらして並べます。



その後で、受け取った市場カードに入っていたアクションカードを好きな順番で処理します（アクションカードの詳細は説明書文末を参照ください）。

c) 対象のグループを選択したプレイヤーが 2 人以上の場合
この場合は、対象グループの市場カードの枚数によって処理が変わります。
c-1) 市場カードが２枚以上ある場合
今回使用した選択カードを裏向き（商人の絵の面）にし、対象グループのそばに置き、そのグループの参加者となります。
c-2) 市場カードが１枚の場合
対象の市場カードを千両箱カードの上に表向きにして重ねて置きます。このグループを選択したプレイヤーはそれぞれ反物カードを１枚受け取り、このラウンドでは以降、参加者ではなくなります。

※反物カードについて
反物カードは受け取った後は骨董品カードと同じ扱いをします。場に反物カードが無くなったら、以降は反物カードを受け取ることができません。
まだ同時に複数のプレイヤーが反物カードを受け取る状態で、反物カードの枚数が足りない場合があります。その場合、それらのプレイヤーは「仕切」から時計回りで順番に受け取ります。

「甲」と「乙」のグループの処理がそれぞれ終わったら、メインフェイズを続けるか元締フェイズに移るかを確認します。

２名以上が参加しているグループが存在した場合
次のターンをおこないます。次のターンの対象グループは、下記の優先順位で決まります。
・今のターンの「甲」グループ
・今のターンの「乙」グループ
・以前のターンで「乙」グループとなり、２名以上参加しているグループ
※稀ですが、６人プレイの場合に「以前のターンで乙グループとなったものが」複数該当する場合があります。その場合、より新しいターンで「乙」グループとなったグループを優先して対象グループとします。

今のターンと以前のターンで分けたグループは分けたままにしておきます。新しいターンの参加者は、出していた選択カードを手元に戻します。

「仕切」は、仕切カード、売場カード（甲、乙）、（手に持っていれば）元締カードを左隣のプレイヤーに渡し、そのプレイヤーを新たな「仕切」とします。
※「仕切」は、参加者でなくてもかまいません。

２名以上が参加しているグループが存在しない場合
次の 3）元締フェイズへ進みます。

※千両箱カードの上にある市場カードについて 全てのプレイヤーはその内容をいつでも確認することができます。

例）赤プレイヤー、緑プレイヤー、青プレイヤーの３人でプレイをしています。
このターン、赤プレイヤーが「仕切」で、次のように分けました。

赤プレイヤーは「甲」、緑プレイヤーは「乙」、青プレイヤーは「乙」を選びました。
「甲」グループを選んだのは赤プレイヤーただ１人なので、赤プレイヤーが「甲」グループにある、刀剣、宝石、元締カードを受け取り手元に置きます。

「乙」グループを選んだのは緑プレイヤー、青プレイヤーの２人なので、緑プレイヤー、青プレイヤーは乙グループの市場カードのそばに自分の選択カードを裏向き（商人の絵の面）にしておきます。次の対象グループはこのターン「乙」グループだったものであり、次のターンの参加者は緑プレイヤー、青プレイヤーの２人になります。

◎次のターンの対象グループ

次のターンの「仕切」は赤プレイヤーの左隣に座っていた緑プレイヤーになります。

３）元締フェイズ

「元締」がいるかどうかで処理が変わります。

- このラウンドの「元締」がいる場合

「元締」は千両箱カードの上にある市場カードを全て受け取ります（※市場カードを受け取った際の処理を参照してください）。
もし、千両箱カードの上にある市場カードが０枚だった場合は、場から反物カードを１枚受け取ります。
その後、そのプレイヤーは仕切カードと元締カード、売場カード（甲、乙）カードを受け取り、次のラウンドの「仕切」となります。

- このラウンドの「元締」がいない場合

「仕切」は仕切カードと元締カード、売場カード（甲、乙）を左隣のプレイヤーに渡します。
そのプレイヤーが次のラウンドの「仕切」となります。千両箱カードの上にある市場カードはそのままにします。

全てのプレイヤーは選択カードを自分の手に持ちます。

１～４ラウンド目の場合、次のラウンドへ進みます。
５ラウンド目の場合、得点計算と勝利条件へ進みます。

得点計算と勝利条件

全てのプレイヤーは自分の前の骨董品カード、宝石カード、大火カードの勝利点を計算します。

- 骨董品カード

種類ごとに枚数を数えます。
その種類のカード枚数が限界枚数以下の場合、１枚あたりその骨董品カードに書かれている勝利点を獲得します。
その種類のカード枚数が限界枚数を超えている場合、１枚あたり－１点になります。
例）赤プレイヤーは茶器を３枚、刀剣を２枚持っていました。
茶器の限界枚数は１枚なので、
茶器による勝利点は－１点×３枚＝－３点となります。
刀剣の限界枚数は２枚なので、
刀剣による勝利点は６点×２枚＝ 12 点となります。

- 宝石カード

宝石カードに書かれている勝利点をそのまま獲得します。

- 大火カード

大火カードに書かれている勝利点をそのまま減点します。

一番勝利点が多いプレイヤーの勝利です。
同点の場合、それらのプレイヤーの中で骨董品カード、宝石カード、大火カードの合計枚数が少ないプレイヤーの勝利です。
それも同点の場合、それらのプレイヤーの中で「仕切」から時計回りで一番近いプレイヤーの勝利です。
※「仕切」自身が最も近いとして判定します。

アクションカード

- 大火カード

ゲーム終了時まで所持します。
ゲーム終了時に－４点

- 儲け話カード

「瓦版」から１枚市場カードを引いてそれを獲得します。
引いたカードがアクションカードだった場合、そのカードの効果を使用してください。
使用後、儲け話カードを捨て札として箱に戻します。

- 破損カード

既に持っている自分の骨董品カードのうち２枚を捨て札として箱に戻します。
骨董品カードが１枚の場合、その１枚の骨董品カードを捨て札として箱に戻します。
骨董品カードが０枚の場合、何も起きません。
使用後、破損カードを捨て札として箱に戻します。

- 贋作カード

既に持っている自分の骨董品カードの枚数を種類ごとに数えます。
このカードを一番枚数が多い種類の骨董品カードの上に置き、その骨董品カードとして扱います。
一番枚数が多い種類が２つ以上あった場合、いずれか１種類を選んでその骨董品カードとしてゲーム終了まで保持します。
１枚も骨董品カードを持っていない場合、この贋作カードを捨て札として箱に戻します。
※贋作カードは、破損カードで除去することができます。また、贋作カードも限界枚数に含めます。

このたびはお買い上げ頂きありがとうございました。ご意見・ご感想はOKAZU（okazubrand@gmail.com）までお願いいたします。
制作：OKAZU brand
（最新情報はこちらへ　http://okazubrand.seesaa.net/）
ゲームデザイン：林尚志（OKAZU）
グラフィックデザイン：ryo@ にゃも　ライティング：HAL99
テストプレイ：いつものメンバー
Special Tanks：健部伸明、John Zinser、Mandy Tong（敬称略）